

世界では現在、約35億人（約5人に2人）が安全に管理された衛生設備（トイレ）を使用出来ない現実があります。そのうち約4.1億人が屋外で排泄を行っています。

LIXILとユニセフは、すべての人々が安全で清潔なトイレや手洗い設備を利用できることを目的としたグローバル・パートナーシップ「MAKE A SPLASH!」（以下：MaS!）を通じて、エチオピア、ケニア、タンザニア、インド、インドネシア、ナイジェリアにおいて衛生課題の解決に取り組んでいます。

MAKE A SPLASH! パートナーシップ ケニアでの活動事例 *2024年7月31日現在

ケニアは、経済の発展に伴い2015年に「中所得国」となったものの、基本的な衛生設備（他の世帯と共有していない、改善されたトイレ）を利用できているのは人口のわずか**36.5%**（2023年 JMP調査）で、いまだ深刻な衛生課題を抱えています。特に農村地域や都市部の低所得者が住む地域では基本的な衛生設備へのアクセスが乏しく、約**360万人**が衛生設備を利用できずに、屋外での排泄を余儀なくされています。これらの衛生課題を解決するために、パートナーシップ「MAKE A SPLASH!」を通じて、衛生設備の利用促進や需要喚起、衛生市場強化の取り組みや学校の衛生設備の改良、女子児童の月経時の対応を含む衛生習慣の促進などの取り組みが行われました。下記はその活動の一部です：

【啓発、衛生市場・サービス】

・2018年以来、8つの郡で手頃な価格で衛生設備を入手できる市場の構築や啓発活動に取り組んだ結果、**582,000人**が少なくとも基本的な衛生サービスを利用できるようになりました。2024年には、さらに2郡での活動を開始しました。

【トイレ設備】

・2023-2024年に**180,000人**が少なくとも基本的な衛生サービスを利用できるようになりました。これには**35,945台**の簡易トイレシステム（SATO）の設置が含まれます。

【手洗い設備】

・2023-2024年に対象地域に**40,000台**のSATOタップが設置され、**265,000人以上**が基本的な手洗い設備を利用できるようになりました。

【衛生関係者の能力強化・職人育成・研修】

・**5,887人**の地域保健推進者をはじめとした衛生関係者が衛生習慣の啓発や、需要創出、SMS(Safely Managed Sanitation:安全に管理された衛生設備)システムの設計等に関するトレーニングを受けた他、**1,057人**の職人が衛生設備の設置に関するトレーニングを受けました。さらに、**210人**の起業家が、地域社会で衛生ビジネスを推進するためのトレーニングを受けました。



@UNICEF Kenya



「学校トイレ改善プログラム」 (STEP)

2022年、MaS!パートナーシップは、ケニアのムインギ北部にある**10校**で「学校トイレ改善プログラム (STEP)」を試験的に採用し、生徒**3,718人**が学習環境で安全なトイレを利用できるようになりました。

このプログラムでは子どもたちの衛生環境の改善に直接貢献すると同時に、手頃な価格で入手しやすい簡易トイレシステム (SATO) の有用性を確かめ、衛生的な設備と習慣を地域社会に広めることを目的としています。STEPプログラムでは、学校職員と子どもたちに女子生徒の月経時の対応を含む衛生習慣の構築を強化し、多くの児童に安全なトイレを提供すると同時に、地域社会に安全な衛生設備の需要を生み出しています。

MaS!パートナーシップは2023年~2024年に、STEPを他の3郡の活動に採り入れ、**46校5,782人**の学童が学習環境で安全なトイレを利用できるように活動中です。日本の「**みんなにキレイをプロジェクト**」はこれらSTEPの拡大を後押しし、プロジェクト2年目以降の継続的な支援により今後3つの郡の50校に通う**15,000人**の児童に衛生設備の改善と月経衛生管理を含む衛生促進を提供することを目指して引き続き取り組みます。

* MAKE A SPLASH!2022年~2023年の活動の成果

* 下記活動の一部にみんなにキレイをプロジェクト資金を使用

